

千年を守る 未来を創る

子供**防犯**総合対策事業

京都府警察本部生活安全部



子供を犯罪から守る4つの対策



1 「見守りの目」
の拡充

2 ボランティア
への支援

3 子供自身の
防犯能力向上

4 情報の発信

子供**防犯**

総合対策

誰一人取り残さない 子供安全社会の実現

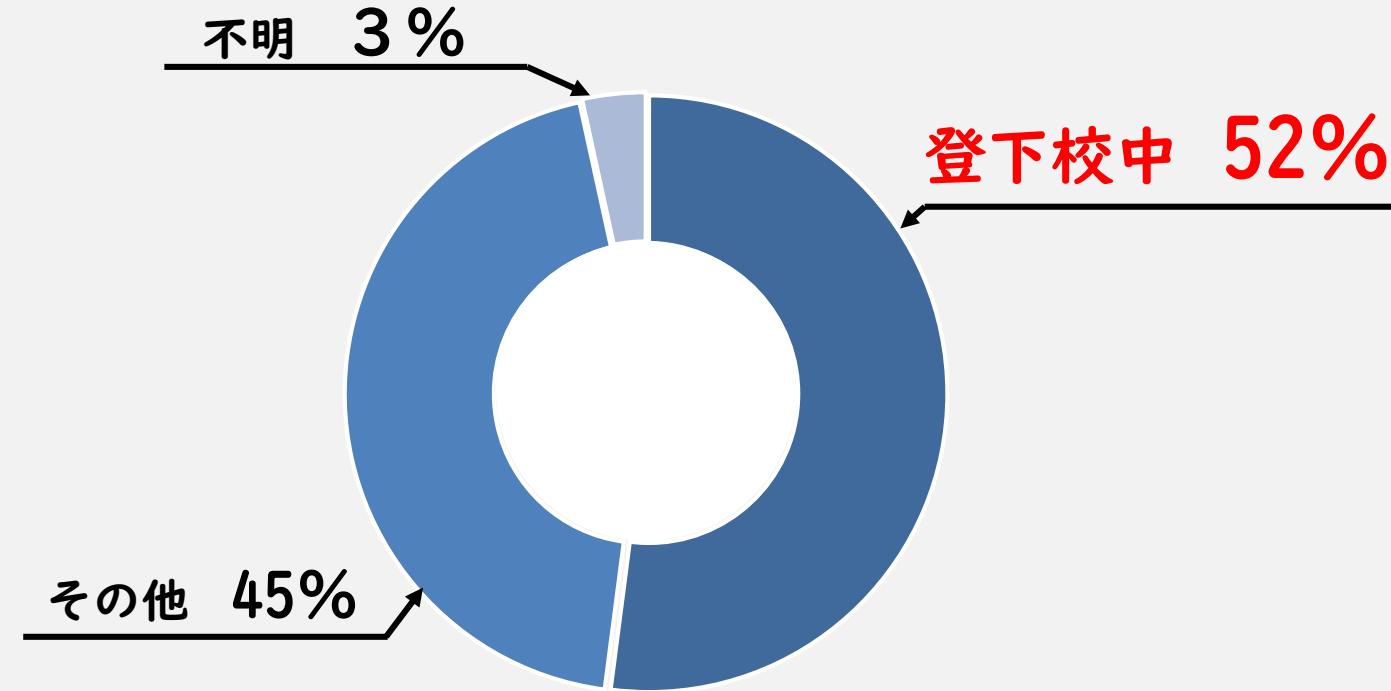
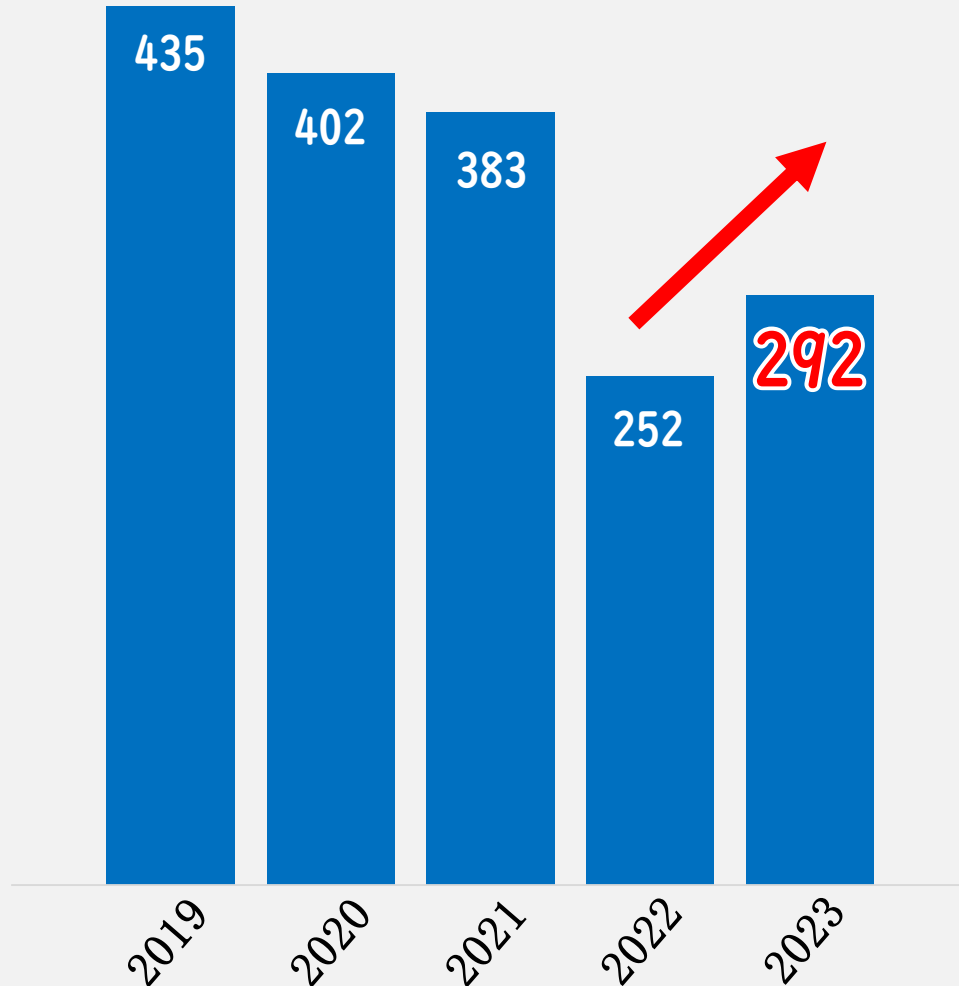
京都府内の子供を取り巻く現状



子供安全情報配信件数

配信件数推移（過去5年）

2023年配信数（292件）の状況別内訳



- ・ 減少していた配信件数が昨年増加
- ・ 事案の半数以上が登下校中に発生

※ 子供安全情報：京都府警察で配信した防犯・犯罪情報メールの内、中学生以下を対象とした声かけ、追隨事案等に関する情報

登下校防犯プラン

- ◇ 平成30年5月、新潟市において下校途中の7歳の児童が殺害、遺棄された事件を受け、「登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議」において、平成30年6月に閣議決定された。
- ◇ 登下校時における総合的な防犯対策の強化を掲げている。

現状

ボランティア
高齢化

共働き家庭
増加

少子化
→学校の
統廃合で
通学距離・時間
が増える



「見守りの目」が減少

「見守りの目」の空白地帯が増加



1

ながら見守り

の普及



「ながら見守り」活動

散歩、買い物、ジョギング、仕事中等日常生活の中で、
できる人が、できる事を、できる時だけというコンセプトで、
子供たちを見守る活動



キーホルダー



国立大学法人京都工芸繊維大学中野デザイン研究室
と協働し、これまでもグッズを製作



マグネットシート



チラシ

寄付金の使途

「ながら見守り」グッズの製作

- ・ 既存の制作物やエコバッグなど新たな「ながら見守り」グッズを製作
- ・ 「ながら見守り」活動のプロモーション

→ 「見守りの目」の拡充





こども110番のいえ 青色防犯パトロール

等への支援

こども110番のいえ

身に危険を感じた子供たちが助けを求めてきたときに、子供たちを一時的に保護するボランティア活動

青色防犯パトロール

警察から認定を受けた団体が、青色回転灯等を装着した自動車を用いて自主防犯パトロールをすること。（通称：青パト）

2023年末における京都府内の台数 938台（前年比 -18台）



減少

寄付金の使途

- ・ 「こども110番のいえ」プレートの購入費
- ・ 青色防犯パトロール車の青色回転灯購入費
- ・ 各種ボランティアの活動マニュアル製作費 等々



体験型防犯学習の実施

～質の高い防犯教育をすべての子供たちに～

防犯教育プログラム

京都府警察では、有識者や教育委員会の方々とともに、子供自身の危険回避能力及び行動選択能力を高めるための防犯教育プログラムを策定

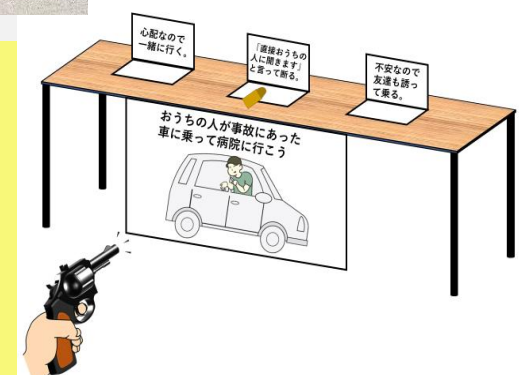
同プログラムでは学習効果を高めるため、子供たち自身が体験して学ぶことを重要視し、ARや大声測定機などを使い、楽しみながら学べるような防犯教室を開催



寄付金の使途

体験型学習教材の製作

- ・ プログラムのアニメーション化
- ・ ボードゲーム型教材
- ・ シューティング型教材 等々





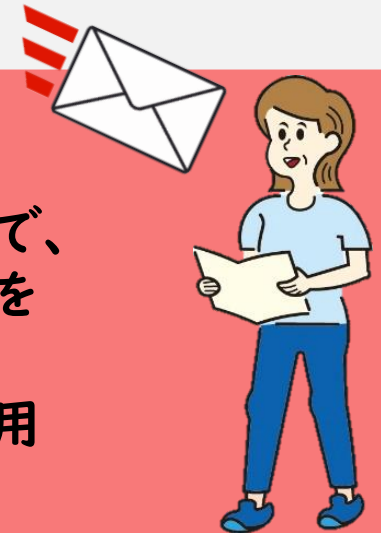
情報が行き渡る環境の構築

～あらゆる情報媒体を活用した情報発信～

情報格差がなく、双方向性のある情報環境

X（エックス）などのSNSによる、時代に応じた情報発信を推進する一方で、デジタル・デバイド（情報格差）を生み出さないためにも、あらゆる情報媒体を活用し、子供の安全のために役立つ情報を発信

また、アンケートやヒアリング、さまざまな交流機会による意見聴取などを用いた双方向性・相互性のある情報環境を実現



京都府警察犯罪抑止対策室X（エックス）
@kpp_hanyoku



寄付金の使途

- ・ ターゲティング広告費用
- ・ 施設の大型モニター放映費用
- ・ 看板、フリーペーパーなどの製作費用
- ・ 各種イベントや会議・講演会などの開催に伴う費用



京都府警察



企業の皆様

子供たちの健やかな成長のために